

まちづくり活動助成（地域“魅力”アップ部門・“はじめの一步”部門）

まちづくり活動提案書

1 助成を受けようとするまちづくり活動の提案について

提 案 名	視点を变えて魅力再発見！ 「音」で観る名古屋観光「音マップづくりプロジェクト」
団 体 名	一般社団法人日本ダイバーシティ推進協会
提案の活動を行う地域	名古屋栄テレビ塔周辺及び久屋大通公園北部
提 案 の 内 容	（狙い） 名古屋の魅力再発見、魅力アップを実現するため、「音」で久屋大通公園をマッピングするワークショップを実施し、2015年あいち緑化フェアの時期にイベントとしてプログラムできるよう、住民主体で、名古屋の「音マップ」をつくることを目的とする。 （内容） 以下の2パートから成るワークショップを年3回実施して材料集めをする。 （パート1） 久屋大通公園の白地図に、自分たちで探した音をマッピングするフィールドワーク。 （詳細） 参加者は1回2時間程度で、視覚障害の方とペアになって、久屋大通公園の「音」散策をする。 気になる音はICレコーダで録音していく。 ナビゲートはもりころパークなどで自然環境学習に取り組んでいるインタープリターズユニットの廣岡氏、浜口氏とともにに行い、自然の発見をする。 （期待される効果） 普段は通り過ぎ、気づいていない都心の豊かな久屋大通公園北側の景色を「足をとめて」味わうきっかけとなる 聴覚が敏感な視覚障害者の方が「あの音何ですか」と尋ねることで、目に入っているにも気づいていない、自然の木々や水路、虫や鳥の音などから視点が自然のなかに持っていける。 一般的な人々は、テレビ塔から徒歩1分程度のところに森があることに気づいていないため、久屋大通公園の魅力の再発見につながる。 （パート2） 2時間内に1グループ6名～8名程度で、音と地図を持ち寄って振り返る。 （詳細） ・地図のマッピングを共有しながら、自分の気付いた音の共有、気づかなかった音の共有をする。 ・音を実際に聞きながら、皆でイメージを膨らませる。 ・音に自由なタイトルをつけて、共同で音地図を完成させる。 （期待される効果） ・聞いていたつもりが聞こえていないもの、観ていても気づいていなかったものがシェアすることによって視点が広がる。

	・自分は興味も持たなかったところに、まだ音があり、自然があったことに他者の視点から気づき視野が広がる。 ・（成果物）音を記録した CD と専用 Web ページ。		
活動期間	平成 26 年 4 月～平成 27 年 3 月	助成金交付申請額	¥342,400 円

2 提案内容について

「1 提案の内容」について、以下の 4 つの視点で具体的に活動内容をご記入ください。

審査基準① 必要性	・地域に根ざしたまちづくり活動内容か ・自分たちの住んでいる地域を住みよい環境にする活動か ・地域との連携や協力が得られる活動か ・活動メンバーのみの趣味活動や仲間づくりではなく多くの人に理解や共感を得られる活動か ・工事を伴う活動の場合、公益性、公共性のあるものか
（提案活動の必要性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。） ※過去の助成を受けた団体は、その活動助成の成果も踏まえて記入下さい。 平成 25 年度における人口減少の前年比は過去最大となり、国内における人口減少推計は 2048 年には 1 億人を割り込むと予想されている。（国立社会保障・人口問題研究所）人口減少、超高齢社会で経済における内需が縮小する中、名古屋においてもより観光産業の活性化が必須となってきた。 名古屋における観光産業はレゴランドの誘致等、行政としての大規模な観光づくりの動きもあるが、市民も住民主体で既存の名古屋の魅力ある資源を再開発し、国内や海外に伝達する発信力が求められている。 そこで、電波塔としての役割を終え、観光スポットとして生まれ変わりつつある名古屋テレビ塔及びその直下の久屋大通公園を屋外型テーマパークとして捉える。そして、NHK 名古屋放送局、中日新聞、名古屋視覚障害者職業開発委員会とも連携（予定）し、「音」に着目した久屋大通公園の四季折々の魅力をじっくり味わう音マップを制作する。その策定プロセスや運用を市民主体で行い、市民自らが既存の魅力ある都市公園に足を止め、地域住民とまじりあいながら、名古屋の都市公園に愛着を持ってもらい、内外に発信していく仕組みを創り出すことを目的としている。	
審査基準② 独創性	・創意工夫にあふれた活動か ・地域性を活かした個性豊かな活動か ・新しい視点やアイデアがあるか
（提案活動の独創性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。） 名古屋で生まれた市民は地元で大学に進み、地元企業にて就職する割合が多いと言われ、他の地域に流出しにくいことから、名古屋の既存の魅力に気づきにくい現状にある。 観光の魅力を外に発信していくには、まず地域住民がその資源と魅力にあらためて出会い、再発見する機会創造が必要である。まず本プロジェクトにおいては、平成 26 年度に「観光地を観るチャンネル」として「音」を活用する。 この「音」のスペシャリストとも言える、名古屋の視覚障害者の方の耳を活かして、あらためて久屋大通公園の魅力を発見する。	
審査基準③ 実現性	・提案内容が具体的になっているか ・自己資金を含め、活動内容や資金計画などは妥当か
時期	活動内容
平成 26 年 4 月	4/26（土）久屋大通公園にて社会実験実施
5 月	NHK 名古屋、中日新聞にて報道予定
6 月	プレワークショップ実施
7 月	音マッププロトタイプ制作
8 月	小学生、大学生、地域住民を巻き込んだ音探しワークショップ（夏）

9月	音マップ制作
10月	音マップ制作
11月	小学生、大学生、地域住民を巻き込んだ音探しワークショップ（秋）
12月	音マップ制作
平成27年1月	音マップ制作
2月	小学生、大学生、地域住民を巻き込んだ音探しワークショップ（冬）
3月	成果物制作

助成を受けようとする活動項目ごとの支出内訳書（ページが不足する場合は別紙にご記入下さい。）

工 項 に ○	活動項目	内 訳		金額(円)
	講師謝金	謝金	10,000 円/回×2 名×3 回	60,000 円
	印刷製本費	CD 制作	100 円×500 枚	50,000 円
	業務委託費	A3 デザイン	1 ページ	20,000 円
	ボランティアス タッフ	交通費	1000 円×30 名×3 回=90,000 円	90,000 円
	イベント保険料	保険料	500 円×30 名×3 回=45,000 円	45,000 円
	ウェブサイト制 作	専用 1 ページ		108,000 円
	消耗品費	立体マップ材料		20,000 円
		IC レコーダー	1 台	5,000 円
	アルバイト人件 費		1000 円/h×15/h×2 名	30,000 円
計 428,000 円		都市センター助成金	342,400 円	(428,000)
		自己資金 (注)	85,600 円	
		「提案したまちづくり活動に係る経費」のうち工事にかかる経費 円		

（注）自己資金には、他の助成金等を含めることはできません。

審査基準④ 発展性	・今後の活動の発展にむけての視点や計画があるか ・助成後に地域まちづくり活動への波及効果があるか
（提案活動の発展性について上記観点から分かりやすくご記入下さい。） 2015 年秋の愛知緑化フェアを念頭に置いた活動をしており、2015 年度は環境にも配慮し、久屋大通公園地区のライトダウンイベントを企画し、そこで音マップを活用したプログラム実施を考えている。 また、同じように「音」から「手触り」や「色」といった新しいチャンネルで、久屋大通公園を見るワークショップを次年度には、他の名古屋の観光地にも展開して行く。	
審査基準⑤ 活動実績 と主体性	・提案内容につながる地域での活動実績を有しているか （団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等をご記入ください。） ・具体的にどんな熱意を注いでいるか ・工事を伴う活動の場合、自ら主体となって工事を行い、継続的に維持管理する能力があるか
※「はじめの一步部門」は審査の対象とはしません。 ※参考資料として活動に関するチラシやリーフレットなどを添付することができます。 この場合、公正を期するため、A4判3枚（両面）までを限度とさせていただきます。 団体の概要、活動紹介、これまでの活動成果等を上記観点からご記入下さい。 「違いを価値に変える」を理念に、平成 23 年に内閣府地域社会雇用創造事業 iSB 公共未来塾社会的事業コンペティションの採択を受けて活動を開始。設立以来、昭和区のコミュニティカフェを用いた体感型の「暗闇ご飯」や平成 24 年には市民活動スペースを活用した暗闇晩餐会を実施した。平成 25 年 11 月には、東山植物園にて、実施された暗闇ツアーのアテンド養成に協力した。体感型イベントの参加者累計 1000 名を超える。	

※第2号様式は、3 ページ以内でご記入ください。用紙の大きさは、日本工業規格 A4 とします。